

令和2年度（2020年度）行政評価シート【個表】

令和 2 年 8 月 14 日

評価対象事業		評価者	観光課長	廣川 正	
市民-03	実施事業	日本遺産事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	観光課（歴史まちづくり推進担当）
			<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	歴史的遺産と共生するまちづくり	施策の方針	歴史的遺産と共生するまちづくり	

1 事業の目的

対象	鎌倉の歴史的遺産
意図	鎌倉の有形・無形の様々な文化財群を総合的に活用するため。
効果	鎌倉の魅力を国内外に発信することにより、歴史的遺産と共生するまちの実現が図られる。

2 令和元年度(2019年度)に実施した事業の概要

<ul style="list-style-type: none"> ・日本遺産いざ鎌倉協議会事務局として、協議会の事業遂行を進めた。 ・日本遺産いざ鎌倉協議会において、平成28年度に作成した鎌倉の日本遺産のストーリーを紹介するブックレットを増補改訂した。 ・日本遺産サミットに参加し、鎌倉の歴史・文化の魅力について情報発信を行った。 ・市民への普及啓発のために、ホームページの更新やツイッターによる情報発信を行った。

3 事業費等基礎データ

データ区分	30年度(2018年度)決算		01年度(2019年度)決算		02年度(2020年度)当初予算		備考
	人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数	人 口	世 帯 数	
人口等のデータ	176,308人	81,763世帯	176,436人	82,444世帯	176,608人	83,058世帯	・各年3月31日(住民基本台帳)
事業の対象者数							
運営資源状況	決算値(千円)	678	1,614	当初予算(千円)	1,418		
	国県支出金			国県支出金			
	地方債			地方債			
	その他			その他			
	一般財源	678	1,614	一般財源	1,418		
事業費運営	人員配置数	1.5	1.5	人員配置数	0.5		
	人件費(千円)	11,440	12,097	人件費(千円)	4,363		
	総事業費(千円)	12,118	13,711	総事業費(千円)	5,781		
	市民1人当りの経費(円)	69	78	市民1人当りの経費(円)	33		
	対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)			

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、ブルダウンで選択。

効率性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	2. 統合に向けた検討は可能
妥当性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	2. 廃止・休止による影響は小さいがある
	今後も市が実施すべき事業か	4. 市民生活に寄与するが、担い手として、国・県・民間等での実施も可能
有効性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入 △-1. 今は受益者負担を求めているが、今後、負担の導入を検討する必要がある
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	○.協働実施済 ○-1. 既に市民等と協働して事業を実施しているが、協働のあり方等の見直しが必要である
		協働実施済の場合のパートナー 日本遺産いざ鎌倉協議会（鎌倉市観光協会、鎌倉商工会議所、鎌倉風致保存会）

事業内容の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す ⇒ <input type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする <input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する <input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する ⇒	見直しの種類	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> その他	見直しの内容	平成30年度をもって文化庁からの補助金(補助率100%)の交付期間が終了したため、活動資金として市負担金の増額を行った。日本遺産を観光視点での活用策などを盛り込むような事業の見直しを行っていく。将来的には日本遺産協議会の自走を目指し、財源確保策を検討していく。
	事業へ統合				

予算規模の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する <input type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする <input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	平成30年度をもって文化庁からの補助金(補助率100%)の交付期間が終了したため、活動資金として市負担金の増額を行った。将来的には自走を目指していくが、自走の目途が立つまでは当面は市の負担による事業継続が必要であり、今後、日本遺産を観光のコンテンツとしての活用を行うため、予算規模を拡充してプロモーション等を実施していく。
----------	---	--------------------	---

総評(評価に対する考え方、根拠等)	国からの補助金が平成30年度で終了したが、引き続き日本遺産事業に取り組むことで、鎌倉の魅力発信に寄与し、本市が目指す歴史的遺産と共生するまちづくりに繋がると考える。 なお、現在は、国庫補助金に替えて市負担金を増額することで事業を継続しているが、協議会自立のための課題整理を行って市負担金を減額する方策を検討し、事業の継続を図っていく。
-------------------	--

令和元年度(2019年度)事業実施にあつた課題 (前年度未解決の事項を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・関連部局、関連施設との連携を図りながら、継続的な情報発信等を行い、「歴史的遺産と共生するまちづくり」についての意識高揚を図っていく必要がある。 ・協議会の財政的な自立化に関する具体的な検討として、令和元年度に増補するブックレットの有償頒布について、方法・販路等を研究する必要がある。 	
課題解決のために行った令和元年度(2019年度)の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・日本遺産いざ鎌倉協議会において、平成28年度に作成した鎌倉の日本遺産のストーリーを紹介するブックレットを増補し、有償頒布に向けて、装丁の変更、頒布額の検討、税法上の協議を行った。 ・市民への普及啓発のために、ホームページの更新やツイッターによる情報発信を行った。 	<input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により、頒布場所の開拓・交渉ができていないことから、ブックレット有償頒布に着手する必要がある。 ・観光コンテンツとしての日本遺産の有効活用が必要である。 	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	日本遺産認定自治体									
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市	
他市実績	○				○	○				

比較事項	日本遺産認定自治体									
団体名	横浜市	川崎市	伊勢原市	厚木市	大和市	海老名市	座間市	綾瀬市	秦野市	
他市実績			○							

比較事項	日本遺産認定自治体									
団体名	南足柄市	箱根町								
他市実績		○								

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	県内認定自治体のそれぞれの個性を活かしつつ、連携の可能性を模索していく必要がある。
----------------------	---

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	観光客の満足度	単位	%	指標の傾向	⇒	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)
当該事業の実施により、観光客の満足度を向上させるため。また、日本遺産を活用した活性化を測る指標として文化庁が設定しているため。	目標値	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0
	実績値	79.2	79.5	76.6	78.9	88.1	87.1
	達成率	93.2%	93.5%	90.1%	92.8%	103.6%	102.5%

指標の内容	市民意識調査「鎌倉に住み続けたいかどうか」(市民の市への愛着度)の回答率	単位	%	指標の傾向	⇒	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)
当該事業の実施により、市民が本市に住み続けたいと感じてもらったため。また、日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化を測る指標として文化庁が設定しているため。	目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	実績値	84.7	83.1	86.5	86.8	87.1	86.9
	達成率	84.7%	83.1%	86.5%	86.8%	87.1%	86.9%

指標の内容	歴史まちづくり推進担当ツイッターフォロワー数	単位		指標の傾向	↗	備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)
市民への普及啓発、情報発信の浸透状況を把握するため。	目標値	-	-	-	125	375	625
	実績値	-	-	-	122	783	1,339
	達成率	-	-	-	97.6%	208.8%	214.2%

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	日本遺産事業を実施することで、本市がめざす「歴史的遺産と共生するまちづくり」が進み、市民や観光客の満足度及び愛着度が増すことが期待される。ただし、「新しい生活様式」の中で、市民や観光客の満足や愛着を高める要素が変化していることが予想されるので、ウィズコロナの時代にふさわしい観光行政や情報発信の在り方を研究する必要がある。
-----------------------	---